

あそぶ、まなぶ、いきる。

山と溪谷社

An impress Group Company

各 位

2026 年 7 月 17 日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

似ているチョウも写真でくらべることで、よくわかる！  
昆虫館スタッフなど、チョウの専門家たちによる図鑑『くらべてわかるチョウ』が発売。

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、2026 年 7 月 17 日に『くらべてわかるチョウ』を刊行いたしました。



本書では日本で見かける身近なチョウ 164 種を、そっくりな仲間と並べて紹介。注目すべきポイントを引き出し線で示しているため、直感的に見分けることができます。

昆虫館スタッフをはじめとするチョウの専門家たちが、野外での見分け・識別に役立つ情報を分かりやすく解説しているので、「身近な黒いアゲハチョウの見分けがわからない」「シジミチョウは似たものが多くてわからない」などの疑問も解決します！

本は大判サイズで写真が見やすく、お子様の夏休みの自然観察から大人の本格的なフィールドワークや自然観察まで、チョウを観察するすべての人に役立つ一冊です。

同じページで、そっくりな仲間を写真でくらべることができる

よく似ている種類を同じ見開きに並べて紹介しているので、違いがパッと直感的にわかります。翅（はね）の表と裏の模様の違いはもちろん、オスとメスの違い、春と夏など季節による変化も紹介しています。

**シロチョウ科 白と黄色のチョウ**

ほとんどが中部のチョウで、白や黄色の地に黒い斑紋を持つ。草地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

**モンシロチョウ** *Pieris rapae*  
 体長 20mm 体色 白・黒  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 最もよく見られるチョウのひとつ。特に、菜の花の幼虫はよく見られる。成虫は花を好み、群舞を舞う。幼虫は菜の花の葉を食す。冬に越冬する。冬に越冬する。冬に越冬する。

**スジグロシロチョウ** *Pieris heastri*  
 体長 20mm 体色 白・黒  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 モンシロチョウと似ていて、白地に黒い斑紋を持つ。草地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

**ヤマトスジグロシロチョウ** *Pieris japonica*  
 体長 20mm 体色 白・黒  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 ヤマトスジグロシロチョウは、モンシロチョウと似ていて、白地に黒い斑紋を持つ。草地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

24

**キタキチョウ** *Euxoa noctuella*  
 体長 20mm 体色 白・黒  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 キタキチョウは、モンシロチョウと似ていて、白地に黒い斑紋を持つ。草地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

**ツマグロキチョウ** *Euxoa japonica*  
 体長 20mm 体色 白・黒  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 ツマグロキチョウは、モンシロチョウと似ていて、白地に黒い斑紋を持つ。草地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

**モンキチョウ** *Colias erate*  
 体長 20mm 体色 白・黒  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 モンキチョウは、モンシロチョウと似ていて、白地に黒い斑紋を持つ。草地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

**シロバナヤマトキチョウ** *Colias erate*  
 体長 20mm 体色 白・黒  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 シロバナヤマトキチョウは、モンシロチョウと似ていて、白地に黒い斑紋を持つ。草地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

25

**南西諸島のチョウ① (アゲハチョウ科)**

南西諸島のチョウは、アゲハチョウ科のチョウで、黒地に白や赤の斑紋を持つ。山地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

**ベニモンアゲハ** *Papilio erastus*  
 体長 20mm 体色 黒・白・赤  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 ベニモンアゲハは、アゲハチョウ科のチョウで、黒地に白や赤の斑紋を持つ。山地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

**シロビシアゲハ** *Papilio polytes*  
 体長 20mm 体色 黒・白・赤  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 シロビシアゲハは、アゲハチョウ科のチョウで、黒地に白や赤の斑紋を持つ。山地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

76

**オキナワカラスアゲハ** *Papilio erastus*  
 体長 20mm 体色 黒・白・赤  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 オキナワカラスアゲハは、アゲハチョウ科のチョウで、黒地に白や赤の斑紋を持つ。山地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

**ヤエヤマカラスアゲハ** *Papilio erastus*  
 体長 20mm 体色 黒・白・赤  
 4月～11月 本州・四国・九州・沖縄  
 ヤエヤマカラスアゲハは、アゲハチョウ科のチョウで、黒地に白や赤の斑紋を持つ。山地や農地などの明るい環境を好み、身近なところにある種が多い。花にもよく飛来する。幼虫はアブラナ科やマメ科を食料とすることが多い。

77

「ここが見分けのポイント！」を引き出し線で分かりやすく提示

「どこに注目すればいいの？」と迷う必要はありません。見分けのポイントを引き出し線で分かりやすく示しているため、誰でも楽しく見くらべながら、チョウの名前を調べることができます。

## ツマグロヒョウモン

*Argyreus hyperbius*

●28～42mm ●本州～南西諸島

●4～11月 ●パンジー、スミシなど

平地から山地で見られる。他のヒョウモンチョウ類とは異なり、幼虫がコナギ科のミズミミ科を食すため、街中でも見られる。北上しているチョウのひとつ。



アザミの花を訪れたオス



## 幼虫・蛹(さなぎ)・卵も紹介！

野外でよく見かける種を中心に、成虫だけでなく幼虫、蛹、小さな卵の写真も掲載。成虫以外の姿からでもチョウの種類を調べられるようになります。

## タデハチョウ科の幼虫

タデハチョウ科の幼虫は、腹部や体側にはやがて成虫を持つのが大きな特徴。長く前さうな線を持つもの、縞縞に立派なアゲハを持つもの、薄く長い縞縞のものなど、その縞は多岐にわたる。



## 読めば誰かに話したくなる。最新の面白コラム

「都道府県のチョウ」の紹介や、「アゲハチョウのオスがとる変わった行動」など、最新の知見を反映した読み応え抜群のコラムも多数掲載。読むだけでチョウの博士になれるような、ユニークな知識が満載です。

### アゲハチョウのオスがとる変わった行動 ～蝶道と山頂占有性～

チョウのオスには、「蝶道」という特定のルートを通り繰り返す飛行パターン、山頂でなわばりを持つ「山頂占有性」と呼ばれる特有の行動をとるものがあります。特に、アゲハチョウの仲間にはよく飛び回るため、これらの行動を見る機会が多いです。この習性を知れば、目的のチョウを野外で簡単に観察することができます。

#### 蝶道

アゲハチョウ科の多くの種は、晴れた日に特定のルートを通り繰り返す飛行パターンをします。このルートを「蝶道」といいます。林道や溪流沿いなど、暗い場所と明るい場所の境目で見られることが多く、条件の良い蝶道で待っていると、次々に色々な種類のチョウが飛んでくることもあります。蝶道のできる場所は、光と温度、蜜源植物、植物の茂り具合などが関係しているため、季節や時間によって変化します。また、チョウの種によって、蝶道をつくる環境は少しずつ異なります。アゲハチョウ科以外にもツマベニチョウのオスなどでも見られます。



蝶道をつくることのあるクロアゲハ。他にモンキアゲハ、カラスアゲハ、ナガリキアゲハ、オナガアゲハなど様々な種で見られる。

#### 山頂占有性

チョウのオスが、見晴らしの良い山頂に飛来してテリトリーを張る行動を「山頂占有性」といいます。オスは山頂を巡回するように飛んだり、適当な場所に止まったりしてメスがやって来るのを待ちます。テリトリーに他のオスや他種のチョウが侵入した時には、はげしく追い出す行動をします。キアゲハやアオスジアゲハなどに見られる行動で、黒色系アゲハチョウは山頂に飛来する蝶道を持っていても、はっきりとしたなわばり行動をすることはありません。山頂占有性はアゲハチョウ科の他にも、ツマグロヒョウモンやヒオドリコチョウ、オムウササキ、ウラナミシジミ、ミヤマセリなどでも見られます。



山頂占有性はアゲハチョウ科以外でも見られる（写真：ヒオドリコチョウ）



山頂でなわばり行動をするキアゲハ

## ■ 本書の内容

### アゲハチョウ科

ギフチョウ・ウスバシロチョウ / アオスジアゲハの仲間など / 黒色のアゲハ1 / 黄色のアゲハ・黒色のアゲハ2 / 家の近くで見られるチョウ

### シロチョウ科

白と黄色のチョウ / 翅の先が赤～オレンジ / シロチョウ科ではない白いチョウ

## シジミチョウ科

尾状突起のない青いシジミ / よく似た青いシジミチョウの裏側 / 尾状突起のある青いシジミ / 個性のあるシジミチョウ / ミドリシジミの仲間 / 森の宝石ミドリシジミ

## タテハチョウ科

タテハチョウ科 1(アカタテハ・キタテハなど) / タテハチョウ科 2(テングチョウ・クジャクチョウなど) / タテハチョウ科 3(ヒョウモンチョウ類) / タテハチョウ科 4(白黒のタテハチョウ) / タテハチョウ科 5(オオムラサキ、アサギマダラなど) / タテハチョウ科 6(ヒメウラナミジャノメなど) / タテハチョウ科 7(クロコノマチョウなど) / 翅の表・裏が大きく違うチョウ / 目玉模様のあるチョウ(タテハチョウ科)

## セセリチョウ科

ガのようだが美しいセセリ / よく似た茶色のセセリ / 北のセセリ・南のセセリ

## 北海道・南西諸島のチョウ

北海道のチョウ 1(アゲハチョウ科・シロチョウ科・タテハチョウ科) / 北海道のチョウ 2(シジミチョウ科・セセリチョウ科) / 南西諸島のチョウ 1(アゲハチョウ科) / 南西諸島のチョウ 2(シロチョウ科・シジミチョウ科) / 南西諸島のチョウ 3(タテハチョウ科 1) / 南西諸島のチョウ 4(タテハチョウ科 2) / 南西諸島のチョウ 5(セセリチョウ科)

## その他のチョウ

高山蝶 / 北上するチョウ / 外来種 / 迷チョウ / 尾状突起のあるチョウ / 絶滅危惧種 / 大きいチョウ・小さいチョウ / チョウのようなガ / 昆虫館の温室で観察できるチョウ

## 幼虫・蛹・卵

探し方のコツ / 飼育と観察 / アゲハチョウ科の幼虫 / シロチョウ科の幼虫 / シジミチョウ科の幼虫 / セセリチョウ科の幼虫 / タテハチョウ科の幼虫 / 蛹 / 卵

## コラム

アゲハチョウのオスがとる変わった行動～蝶道と山頂占有性～ / 害虫としてのチョウ / 2種に分かれたキチョウ / テリトリー / アリとの共生 / 渡りをするチョウ / 都道府県のチョウ / 北のチョウ・南のチョウ / 高山蝶とは？ / 絶滅危惧種の保全活動 / 体内に毒を持つチョウ

## 【著者プロフィール】

森地重博 / 監修・著

1948年生まれ。大阪府箕面市在住。日本チョウ類保全協会理事。日本鱗翅学会や大阪昆虫同好会などに所属。共著に『かんたん識別！身近なチョウ』(文一総合出版)、『大阪府の蝶』(大阪昆虫同好会)など。チョウの保全活動やムシ好きの子どもたちと野外観察などを行っている。

奥山清市 / 著

1970年山形県生まれ。兵庫県在住。伊丹市昆虫館元館長。1995年より伊丹市昆虫館に勤務、2012年4月より2022年2月まで館長。現在、市立伊丹ミュージアム館長。共著に『かんたん識別！身近なチョウ』(文一総合出版)、『博物館のプロのすご技で自然を調べよう』(少年写真新聞社)、『くらべてわかる昆虫』(山と溪谷社)など。

清水聡司 / 著

1968年大阪府生まれ。大阪府営箕面公園昆虫館副館長。箕面公園昆虫館、ぐんま昆虫の森、足立区生物園を経て2017年に再び箕面公園昆虫館に戻り現職。NHKラジオ「子ども科学電話相談」昆虫担当回答者。著書に『ふしぎな昆虫のせかい』(repicbook)、共著に『かんたん識別！身近なチョウ』(文一総合出版)など。



池田 大 / 著

1994 年兵庫県生まれ。奈良県在住。愛媛大学で昆虫分類学を専攻。三田市有馬富士自然学習センターを経て、2020 年より橿原市昆虫館に勤務。本業の傍ら、NPO 法人こどもとむしの会理事及び同会が発行する『きべりはむし』の編集長を務めている。著書に『かんさいのせみ』(NPO 法人こどもとむしの会)、共著に『昆虫館はスゴイ!』(repicbook)など。

前畑真実 / 著

1970 年兵庫県生まれ。伊丹市昆虫館に勤務。本業の傍ら、イモムシ・ケムシの専門サイト「芋活.com」を運営。共著に『癒しの虫たち』(repicbook)、『生きかたイロイロ! 昆虫変態図鑑』『似せかたイロイロ! 昆虫擬態図鑑』(ポプラ社)など。

#### 【くらべてわかる図鑑シリーズについて】

「くらべてわかる」シリーズは、似たもの同士をくらべる事で見分けをサポートする図鑑です。見開きに似ている種類を並べ、違いを引き出し線でわかりやすく解説。どこに注目すると見分けられるかが一目でわかります。野鳥・淡水魚・きのこ・哺乳類・木の葉っぱ・昆虫・甲虫・シダ・カエル・貝殻・蛾・トンボ・岩石・動物の痕跡・海水魚などラインナップ多数。

#### 【商品詳細】

書名: くらべてわかるチョウ

著者: 森地重博＝監修・著 奥山清市・清水聡司・池田 大・前畑真実＝著

定価: 2,200 円(本体 2,000 円＋税 10%)

発売日: 2026 年 7 月 17 日

仕様: B5 判 / 128 ページ / オールカラー

商品 URL: <https://www.yamakei.co.jp/products/2826063750.html>

#### 【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930 年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。

さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

#### 【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:塚本由紀)を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

---

#### 【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当: 手塚

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: [info@yamakei.co.jp](mailto:info@yamakei.co.jp)

<https://www.yamakei.co.jp/>